

発刊にあたって・祝辞



西山陽一

創立80周年記念事業協賛会長 西山陽一

本来であれば昨年に創立80周年として式典・祝賀会、記念事業を予定しておりましたが、コロナ禍に於ける挙行について協賛会役員・学校関係者と協議し、開催するのは難しいのではないかと一年延期を決定させて頂き、この令和4年、万感の思いで記念すべきこの80周年を在校生、教職員、保護者をはじめ関係各位、そして同窓生共々、心からのお祝いを申し上げます。

昭和16年北海道庁立旭川工業学校として、応用化学・建築・土木の3科設置に始まり、幾多の変遷を経て北海道旭川工業高等学校として、本年開校80周年を迎えることができました。昭和23年第二工業学校に併置されていた旭川市立工業学校が本校に移転、旭川市立工業高等学校（夜間部）と改称され、昭和24年建築・土木の2科設置、定時制土木科・建築科が設置、昭和26年に電気科が、31年機械科、33年自動車科、36年電子科・定時制課程電気科が設置され、全日制課程7学科・定時制課程3学科が名称を変えながらも完成致しました。少子化時代と共に平成3年土木科が1学級減、6年機械科が電子機械科に、10年電子科が情報技術科に名称変更、13年電子機械科が1学級減、26年定時制建築科と土木科の2科が「建築・土木科」として1科に統合、そして令和2年、自動車が62年の歴史に幕を閉じることになりました。結果、全日制課程6学科18学級、定時制課程2学科8学級となりましたが、伝統を受け継ぐわが母校は、目まぐるしく変化する時代の流れにあっても素晴らしい校訓「信頼される人になれ」を心に刻み学び続け、すでに2万6千有余名の人材を輩出し、旭工健児名を広く知らしめてきました。その同窓の仲間が地元はもとより道内、国内、世界へと各地で活躍されていることは、私どもの共通の誇りとなっております。

創立80周年の節目を迎え、事業としましては式典、教育環境の整備、朝日子の館（同窓会館）のボイラーの修繕、学校林の伐採・記念植樹、又今日の繁栄を見ないままに他界されました恩師教職員並びに同窓生の御霊に対し感謝の意を捧げたいという思いから、慰霊祭を行います。

母校の部活動に於かれましても、各部共に以前にも増して活発になり、今年度全国大会に新聞局・ものづくり（木材加工部門）大会・ソフトテニス部が出場し、その活躍は70周年以降も支部大会・全道大会・全国大会へと多くの部が優秀な成績を残しています。又、野球部も平成24年には5回目の甲子園出場をはたし、名門龍谷大平安高校と手に汗握る熱戦を繰り広げ、9回2死まで2点リード、あとアウト一つ取れず延長。結果は惜敗でしたが、全国の人々に旭工の名を広めた意義は非常に大きいものがあります。旭工の校訓「信頼される人になれ」と言う言葉は誠に易しく簡単なようですが、その中味につきましてもなかなか厳しいものが要求されております。生徒諸君も校訓を胸に、これからも充実した勉学と部活動に励み、今後永遠に続く旭工の歴史と伝統を守って頂きたいと念願する次第です。

結びにあたり、これから益々隆昌発展する旭工のために、皆様方の以前にも勝るお力添えを切にお願い申し上げます、私の心からなるお祝いのことばといたします。



創立80周年を迎えて

北海道旭川工業高等学校長 稲津 誠

このたびの創立80周年を迎えるにあたり、PTA、同窓会のご協賛と地域関係各位のご支援を賜り、記念事業のひとつとして、創立80周年記念誌を発刊することとなりました。本誌がこれまでの歴史と伝統を更に高め、PTA、同窓生はもちろんのこと、本校の関係各位の一層のよりどころとなればと考えております。

さて、本校は昭和16年2月、地域社会の大きな期待と要望を担って北海道庁立旭川工業学校として設立されました。その後、昭和23年の学制改革により北海道立旭川工業高等学校となり、昭和24年には定時制課程を設置、昭和57年には現在の地に校舎を移転しました。70周年からの10年間を振り返ると令和2年3月に全日制課程の自動車科が閉科となり、62年の歴史に幕を閉じました。閉科とはなりませんが、2千3百名余りの卒業生を輩出し、旭川市はもとより全国の自動車関連産業において活躍されています。また、平成26年4月に定時制課程の建築科、土木科の2科が建築・土木科1科に統合されました。現在、全日制6学科6間口、定時制2学科2間口となり、道北地方の工業教育の中心校としての役割を果たし、校訓「信頼される人になれ」のもと、高い知性と実践力にみちた工業人の育成という創立以来の目標に向い、80年を歩み続けて参りました。卒業生も2万6千有余名を超え、地元北海道はもとより、日本国内の工業界ひいては世界各地で目覚ましい活躍をされ、高い評価をいただいております。これも偏に、生徒自身の高い志と、歴代校長先生をはじめ諸先生方、さらには同窓生並びに保護者や地域の皆様方の「人づくり」に対する献身的なご尽力の賜と深く敬意を表す次第でございます。

最近の10年を振り返ってみますと、学習活動においては、全科をあげての各種の職業資格の取得や地域連携活動の実施など地域の工業高校としての確かな実績を築いて参りました。また、平成25年度から3年間、文部科学省の指定事業として「専門的職業人として資質・能力に関する評価手法」について研究し企業が工業高校に求める資質・能力を育成する工業科実習の評価手法として「旭エルーブリック」を作成し、評価法を確立しました。

部活動におきましても、平成24年にはバドミントン部、平成25年にはソフトテニス部がインターハイへの出場を果たし、ボクシング部は平成28年度から令和3年度まで4回のインターハイ出場、平成24年には野球部が5回目の甲子園大会、平成28年にはラグビー部が花園大会初出場、定時制においても、卓球部がシングルスで定通体連全国大会に平成26年から4年連続出場と輝かしい実績を残して参りました。文化系においても、新聞局は平成29年から4年連続全国大会への出場を果たし、令和元年には美術部、平成24年・29年・30年には放送局が全国大会出場するなど、文化系においても輝かしい実績を残しています。

また、工業の分野においても「ものづくり競技大会」「若年者ものづくり競技大会」「全国高等学校ロボット競技大会」等の全国大会に出場しており、工業化学科では「高校生ビジネスアイデア甲子園」で令和元年にグランプリを受賞、情報技術科では「若年者ものづくり競技大会(電子回路組立職種)」で平成26年に2位という、素晴らしい結果を残しています。

この度の記念行事に当たり、記念事業協賛会の設立をいただき、同窓生を始めPTAの方々から多大なるご高配、ご支援をいただきましたことに厚く御礼申し上げますとともに、そのご厚情に報いるため、今後も「ものづくりは人づくり」を継承し、教職員一同、心を一つにして教育活動に邁進する所存であります。末筆になりますが、本誌の発刊に当たり貴重な資料提供や原稿の出筆を賜りました多くの方々へ深く感謝申し上げますと共に、編集に携われた方々に心からお礼を申し上げます、発刊の言葉といたします。



北海道旭川工業高等学校創立80周年によせて

北海道教育委員会教育長 倉本博史

北海道旭川工業高等学校が、このたび、創立80周年を迎えられ、「創立80周年記念誌」を刊行されますことに、心からお祝い申し上げます。顧みまずと本校は、昭和16年に時代を拓く有為な人材育成を目的として、北海道庁立旭川工業学校として開校いたしました。その後、昭和25年に現在の校名である北海道旭川工業高等学校に改称し、以来、幾多の変遷を経ながら、道内屈指の工業高校として発展してまいりました。この間、2万6千名を超える卒業生が本校を巣立ち、地元旭川市はもとより道内外の様々な分野で活躍されており、誠に喜ばしい限りです。

本校は、「信頼される人になれ」を校訓に掲げ、豊かな人間性と広い視野をもち、進んで社会に貢献する心身ともに健全な工業人の育成に努め、創立以来、教職員や生徒、保護者が一丸となって創意工夫あふれる教育活動に取り組んでこられました。

特に、平成25年度からの3年間は、文部科学省委託事業「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」において、工業高校で学ぶ生徒に企業が求めている資質・能力を育成する工業科実習の評価手法についての研究を行い、全学科で共通した目標や指導の要点を明確にした「旭工版ルーブリック」を作成するなど、生徒が社会で活躍するための資質・能力の育成を図る先進的な教育実践は、本道における工業の発展を支える人材育成の取組として高く評価されており、

また、全日制においては、令和元年度に「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」でグランプリを受賞したほか、「高校生ものづくりコンテスト全国大会」や「全国高等学校ロボット競技大会」などの各種全国大会に幾度となく出場を果たすなど、輝かしい実績を上げております。定時制においては、生徒が身に付けた技能を生かす取組として、旭川市民から持ち込まれたおもちゃを修理する「おもちゃの修理屋さん」や、小学生に電気工作を体験してもらう「夏休み電気工作教室」を開催するなど、日頃の工業教育の成果を地域に還元し、地域の期待に応える活動を続けております。

さらに、部活動においては、野球部が平成24年度に5度目となる夏の甲子園大会出場、ラグビー部が平成28年度に創部初の全国大会出場を果たすとともに、放送局は「全映協グランプリ学生部門」において最優秀賞である文部科学大臣賞を2度受賞するなど、幅広い分野で大変優秀な成績を収めております。

本校が、このような輝かしい伝統を築き、今日まで発展を遂げてこられましたのは、歴代の校長や教職員の皆さんの御尽力はもとより、生徒の皆さんの御努力、PTAや同窓会、地域の皆様の温かい御支援、御協力の賜物であり、ここに深甚なる敬意と謝意を表するものであります。

結びになりますが、本校の教育の振興にひとかたならぬ御尽力をいただきました関係の皆様方に、深く感謝を申し上げますとともに、本校のますますの御発展を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

旭川市長 今津寛介

北海道旭川工業高等学校が、創立80周年の輝かしい節目を迎え、これまでの歩みを振り返る記念誌が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

さて、貴校は昭和16年に北海道庁立旭川工業学校として創立されて以降、長きにわたり、学業はもとより、文化・体育活動など様々な分野で素晴らしい実績を積み重ねられてこられました。現在では、全日制課程6学科、定時制課程2学科において、生徒の皆さんが、自らの目標に向かって日々勉学に励んでいるものと存じます。また、学業のみならず、クラブ活動も盛んで、運動系や工業系を中心に全国大会にも数多く出場されているほか、課外活動では、放置自転車の再生活動やごみステーションの補強、スタルヒン球場の看板修復など、まちづくりの面からも大きく御貢献いただいているところであり、深く感謝を申し上げます。

これまでの80年の歴史の中では、「信頼される人になれ」という校訓を胸に、2万6千人を超える卒業生が、本市のみならず日本全国、世界を舞台に活躍されております。これもひとえに歴代校長をはじめ、日夜熱心な御指導に当たられている教職員の皆様並びに父母の皆様をはじめとする関係者の皆様方の御尽力の賜物であり、衷心より敬意を表します。

我が国は、貴校の卒業生をはじめ、多くの技術者たちが懸命な努力を積み重ね、世界でも有数の技術大国として確固たる地位を築いておりますが、今日、他国におけるIT技術の進展や成長が著しい中で、日本の国際競争力の低下が懸念されております。このため確かな技術力を身につけた人材を育成する工業教育の重要性が増してきており、貴校には、今日まで築き上げてきた実績や伝統のもと、豊かな人間性と広い視野を持ち、社会に貢献する工業人をこれまで以上に送り出してくださいことを心から期待しております。

生徒の皆さんにおかれましては、この歴史ある学び舎で、学業やクラブ活動に大いに励んでいただき、直面する様々な課題にもしっかりと向き合い、自らの目指す目標に向かって、全力で取り組んでいただきたいと存じます。

結びに、北海道旭川工業高等学校が、創立80周年という大きな節目を契機に、今日まで築き上げてこられた輝かしい歴史と伝統をしっかりと未来へとつなぎ、更なる御発展を遂げられますとともに、関係各位の今後ますますの御健勝と御活躍を心から祈念申し上げます、お祝いのことばいたします。



創立80周年記念誌発刊に寄せて

第41代北海道旭川工業高等学校PTA会長 岩崎昌治

北海道旭川工業高等学校が創立80周年を迎えられ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも81周年目の今年、無事に記念行事が執り行われ、記念誌が発行されることに心からお祝い申し上げます。

昭和16年に北海道庁立旭川工業学校として開校し、昭和24年に夜間課程（現在の定時制）が旭川市立工業高校から移管され、現在、全日制6学科・定時制2学科で、『信頼される人になれ』の校訓の元、勉学や部活動に励まれ、全道・全国へと優秀な工業人の輩出をしてきた伝統ある高校であり、卒業生の各界における活躍ぶりも輝かしいものです。

人口減少や産業構造の変化、子どもの職業意識の変化などにより工業高校の設置科や学級数が変遷してきていますが、その時代に合った工業高校として変遷してきており、2万6千人を超える多くの職業人を搬出されております。令和2年に自動車科が閉科したことは残念なことです。また、ひと昔前には考えられなかったYoutuberなど新たな職業が出現し、自動車も機械的要素から電子・電気機械に置き換えられてきています。また、環境産業もその市場が大きくなっており、すべての面において環境や持続可能を考えた取り組みが深まっていくことでしょう。その学びの一つに工業高校があり、高校生活の3年間あるいは4年間において、勉学だけではなく、部活動や大会・コンテスト出場において、たくさんの方の経験から社会に出ても耐えうる人間性を醸成できたことではないでしょうか。そして、就職・進学においても、優秀な先輩のおかげで、多くの企業、大学等から声がかかり、就職・進学率も高く、他に誇れる高校であり、保護者としても誇らしい限りです。

さて、同窓会を中心にPTAと学校とで「旭工80周年記念事業協議会」を2年前に立ち上げ、準備期間から4年を経て記念事業が執り行われています。新型コロナウイルス感染症の影響で昨年実施の予定が1年延期されましたが、ウィズコロナ時代を見据えた記念行事のあり方を議論しながら執り行っていることは、これまでご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。また、わたたくし自身、よい経験を積ませていただき、感謝申し上げます。今後、ウィズコロナを見据えて、社会情勢がもつと好転し、いろいろな活性化されていくことを願ってやみません。

旭工生・卒業生並びにその保護者の皆さんには「旭工愛」を胸に、これからも旭工の発展にお力添えをお願いしたいと思います。また、教職員の方々に、旭工をこれまで以上に支えていただき、各界で活躍できる工業人の輩出をお願いいたします。

北海道旭川工業高等学校が素晴らしい伝統を継続し、新たな世代へと引き継がれ、さらなる飛躍を願うとともに、校長先生をはじめ諸先生方、同窓生、生徒、保護者の今後の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

創立80周年、誠におめでとございます。

旭工の一年

(全日制)

入学式



新入生 入場



新入生代表宣誓

宿泊研修



旭工最後の宿泊研修！



工高祭



創作活動!

工高コン



旭工オリンピック



一致団結!



全校スキー



卒業式



祝卒業!



